

三月読みとりおけいこ①（中）

名前（

）

三月三日はひなまつりの日ですね。ということで今日はひなまつりについて、くわしくなっていたきたいと思います。そもそも、平安時代にはこれは上巳じょうしの節句せっきうといいました。もともと一月一日・三月三日・五月五日・七月七日・九月九日は五節句ごせっきうといって、何らかのおまつりをしていたのですが、そのうちのひとつです。

紙ひとがたで人形ひとがたを作り、息いきをふきかけて体内のけがれをうつし、川に流すなどしていたのです。今でも、奈良県ならけんの吉野や鳥取県とっとりけんには流しびなの風習が残っています。

でも、だんだん流さないで家にかざられるようになりました。江戸時代はどんどんひなだんがごうかになり、もつと小さいおひなさんにしなさいというおふれがでたりしています。

はじめはお公家くけさんやおさむらいの家のものだったひなかざりは、ふつうの家にも広まっていきました。そして、嫁入り道具よめのひとつにくみこまれるようになったのです。

基本きほんはお内裏様だいりといわれる男のおひなさまと女のおひなさまです。もとは男の方が向かって右（上座から見て左）でした。古来、右より左が上だとする考えがあったからです。でも、明治時代に、男女同権の考えが入ってきて、大正天皇や昭和天皇は皇后こうごうと並ぶときに右（向かって左）に位置しました。それで、今はどちらでもいいことになっていますし、地方によってもちがいます。京都では、むかしながらのならば方をするおうちが多いようです。

三人官女ごにんばやでは真ん中が鉄漿てつじょうをつけた年かさの人、五人囃子ごにんばやは向かって右から謡うたい、笛ふえ、小鼓こつづみ、大鼓おおつづみ、太鼓たいこです。楽器が小さい順に右から並んでいるとおぼえておくとかざりやすいですよ。音読サイン→

① 何の話でしょう？

（

）

② ひなまつりのことを平安時代は何といいましたか？

（

）

③ 五節句の五月の分は今何の日になっていますか？

（

）

④ では、七月の分は何の日ですか？

（

）

⑤ 人形のもうひとつのよみ方を書きましょう。

（

）

⑥ むかし、左大臣と右大臣ではどちらが上とされたのですか？

（

）

⑦ 五人囃子の中で一番えらいとされたのは何をする人ですか？

（

）

⑧ ⑦の人の持ち物は何ですか？

（

）

⑨ あっているものに○をつけましょう。

（

）

（ ） ひなかざりはむこいりの道具である。

（ ） 若い官女ははしっこに位置する。

（ ） 昭和天皇はいつも皇后のうしろだった。

⑩ 上の話の感想を五行でまとめましょう。

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

できれば？

